

6月15日 (日) ローマ 6章	「罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです」(23節)。私たちが神の愛に背を向けて自分の生きたいように生きる時、その行きつく先は死である。しかしキリストにバプテスマされる(=沈められる)時、キリストの恵みにすっぽり取り囲まれた歩みが始まる。この喜びを賛美して新しい週を始めていこう。
16日 (月) ローマ 7章	「あなたがたが…死者の中から復活させられた方のものとなり…わたしたちが神に対して実を結ぶようになるためなのです」(4節)。律法から解放され“霊”に従う新しい命に移された私たち。「復活させられた方のものになる!」とは、私たちが自分の人生を裁き、評価することから解放されて、復活の希望に導いてくださる方に委ねること。その声を聴いていこう。
17日 (火) ローマ 8章	「キリスト・イエスによって命をもたらす霊の法則が、罪と死の法則からあなたを解放したからです」(2節)。キリストにバプテスマされた者(=沈められた者)(6:3)はキリストの恵みに守られ、律法の罪と死の裁きから解放されている。神を「アッバ、父よ」と親しく呼び、神の子として生きる喜びをいただいた者として、この世界に平和をつくりだす働きをささげていこう。
18日 (水) ローマ 9章	「神はわたしたちを憐れみの器として、ユダヤ人からだけでなく、異邦人の中からも召し出してくださいました」(24節)。「怒りの器」として滅ぶべき者を神は「憐れみの器」に変え、ご自分の栄光を与える者として下さった。この驚きと歓喜がパウロの福音宣教の中心にある。「憐れみの器」は神の恵みの前に自分を小さくされた者。神の恵みの大きさを誇っていこう。

19日 (木)	「実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。聖書にも、『主を信じる者は、だれも失望することがない』と書いてあります」(10—11節)。「公に言い表すこと」は大きな勇気が求められる。けれど主イエスの教会の交わりに信頼して自分を告白する時、私たちはキリストの恵みの中にすっぽりと包まれ、確かな救いを知らされる。ハレルヤ！
ローマ 10章	
20日 (金)	「ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう」(33節)。神の慈しみは大きく深く、私たちには捉えきることができない。私たちが「もう終わりだ！」と絶望する時、神は希望に向かう出口を備え、「そんなことにどんな意味があるのか？」とつぶやく時、神は弱さの中に働く恵みの不思議を見せてくださる。
ローマ 11章	
21日 (土)	「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい」(12節)、「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」(21節)。私たちは自分の力で苦難を耐え忍び、悪に勝つことはできない。墓の石を打ち破られた主の希望をいただく時に初めて耐え忍ぶことが出来るし、私たちの心に十字架の主の祈りが響く時に初めて悪に立ち向かう力与えられる。
ローマ 12章	
22日 (日)	「『隣人を自分のように愛しなさい』という言葉に要約されます」(9節)。これを実行することはなんと難しいことか。世界を見渡しても人に対しての憎悪に満ちている。一国のリーダーの間違いから国と国とが戦争し、悲惨な争いに巻き込まれている人々がなんと多いことか。まず、心から神を愛することが必要だろう。隣人を愛するために。
ローマ 13章	